３つの森林活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１・３日曜日

知足の森

第１・３日曜日

相模湖・嵐山の森

不定期活動

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.490-491

若葉まつりで松本城に挑戦

【定例活動報告】小原本陣の森

第１日曜日の活動より

令和になり最初の活動日である。大連休の最初であり参加者は少ない。嵐山の最終点検と残りの作業手順の計画を練った。廃材の中で釘など金属片のあるものをバールと釘抜きで処置を行った。人数が少ないため第三日曜の計画を練り効率よく流れるように段取りを考えた。

続いて小林さんの竹林整備に出かけたが不在のため、物置小屋との整頓とチェンソーの整備を行った。畑に寄って見ると、ジャガイモなどの新しい苗がうえつけられていた。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

第３日曜日の活動より

　前日までの風雨が昨日から嘘のように全国が真夏日に覆われた終日であった。大陸から張り出した高気圧と太平洋から押し上げられた高気圧に挟まれる形になった日本列島がもたらした現象だ。最後の残った「モマハウス」の解体を予定していたが、解体リーダーの石井さんが欠席になったため、次回に延期するこにした。乾燥小屋と木工小屋があった空き地の徹底整備をすることにした。
　解体後の釘や金属類で怪我の無きよう土を掘り起こしながらの作業だが間伐材も古く年数が経っているため大変な重労働を強いられた。掘り出した材は林道の補強と土留めに使った。私は腰を痛めた様で後日病院に罹ったほどだ。その後花畑に必要で埋められた大谷石やイタリア製のテラコッタ石などを掘り出し軽トラで二往復し運びだした。
　予定の3月末を二か月オーバーしたが、「モマハウス」を残し何とか撤去できる状態になった。林道脇まで運んで積み上げられた木材は歩行者の妨げになる恐れもあるのでここから「小屋」と合わせて運び出したい。午後からは小原活性化協議会にオブザーバーとして5名で参加しNPO緑のダムの考えと活動内容を報告させて頂いた。
　フォレストノバにも新入部員が入部されたこと、フォレストクラスとしての今後の活動など将来にむけた新たな活動体制も徐々に整いつつある姿を見るにつけ、やってきて良かったとつくづく思う。

小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】知足の森

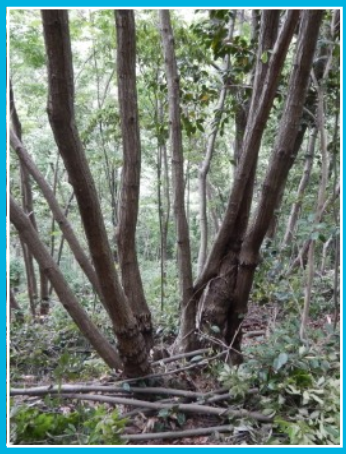
第１日曜日の活動より

　５月の第１日曜日は連休ということもあり、参加者も少ないだろうと見越して、かねてから計画していた「調査」を実施した。参加者は私と粟田さんと高校生２名。目的は夏の体験学校で活動できる「沢」を探すことである。これまでの体験学校では小原の沢で沢遊びを行ってきたが、水量も少なく、１０数人の子どもが入るとあっという間に泥が舞ってしまっていた。それでもサワガニを探したり、ちょっとした滝を登ってみたりと楽しめるものではあるが、もう少し流れや深さがあればと思っていたところだった。以前、小原の尾根の登山道の調査で誤って美女谷の方へ降りてしまったことがあった。沢にまつわる伝説が残っているくらいだから、水量もありそれなりに遊べるんだろうなと漠然と考えてはいた。そんなおり、私の職場で河川をフィールドに研究をされている吉富先生と学会で知り合い、お話ししたら大変興味を持ってもらい、一度行って見てみたいと言っていただいた。それが４月半ばのことで、先生と研究室の学生さんとで民泊の宿がある周辺を中心に水生生物の調査を行った。その際、沢の状況を見ると子どもたちが遊ぶには十分な感じがしており、きちんと調査し、歩いてみようか、というのが今回の調査目的である。よって、少人数で機動的に動けるメンバーが召集され、かつ、腰くらいまで濡れてもOK装備で沢に入ることになった。
　まずは民泊の脇からすぐにアプローチできることはわかっていたので、そこから。ただ、すぐに５、６mはある砂防ダムがある。民泊に泊まられている外国のお客さんは飛び込んだりするようだが、進めるのはここまで。その下流でアプローチできる部分をなんとか探し、沢に降りてみる。流れも幅もちょうどよ

く、自由に遊ばせるならここ、ということがわかった。午後からは上流の行けるところまで歩くことになった。沢沿いには倒木やら竹が倒れかかったりしているポイントも多いので、体験学校前にはフルメンバーでこの処理が必要になるだろう。ゴール地点として設定したところの直前にちょっとした滝があり、挑戦できる子どもは登ってみれば、（大人は問題なく登れた）神秘の滝を目指そう、のようなキャッチフレーズで楽しめることがわかった。滝を登ってしまえば、一気に高さが稼げて、脇の車道まではすぐだ。登ったところにはお昼を食べれそうなスペースもあり、住民の方にも使っていい承諾をもらったので、体験学校のイメージがほぼできた。しかしこの様子を吉富先生に見てもらったら、これくらいの沢であれば、ライフジャケットとヘルメットをした方が良い、とのことで、イベント用にレンタルをした方が良さそうだ。（買っても高いものではないが、どこに保管するか考えれば、レンタルで、ということになった）

第３日曜日の活動より

今回は地球環境部の高校生大学生2名に中学生3名とスタッフ、午後からはフォレストノバも加わって、長福寺の森の整備を行った。午前中は初参加中学生のために、先月の続きの広葉樹の森の整備。姿勢を安全に保ちながら、少しずつ慣れていく中学生は作業がどんどんうまくなり、放っておいても作業ができるように。高校生、大学生は何年も通っているメンバーなので、自分たちでやらねばならない区画を見つけて作業が進む。作業が終わった周りを見渡すと、萌芽更新が大きくなったコナラを残すのみに。５、６本に分かれているが、これは初参加の中学生には難しいので、来月の課題に残す。



午後からは沢を上っていったところの枯れたり、折れてしまっている木の間伐。フォレストノバチーム、初参加者チーム、もっとも慣れた作業がうまいチームと分かれて作業を開始。最初は押せば倒れてしまいそうな木で受け口、追い口の説明をして、いざ作業。初参加者チームも無事に倒すことができ、写真のような達成感。次回の参加もお待ちしております。

宮村　連理（本会、副理事長）

私は先日NPO法人緑のダム北相模の活動に初めて参加しました。参加しようと思ったきっかけは、学校で活動について知り、いままで、ボランティアに参加したことがなかったので、行ってみたいと思ったことと、単純に木を切るということに魅力を感じたからです。相模湖駅に行って、午前中は斜面にはえている木を何本かきりました。木を切るというと、とてもむずかしそうで不安でしたが、はじめは細かったり、枯れていたりする木をきったし、他にも初めて参加する人がいたため無理なく活動できました。

細い木だったけれど、ひとりで切り倒せたときはうれしくて、みしみしいいながら倒れていく所がおもしろかったです。途中から夢中になっていて、お昼の時間になるまでがとてもあっという間でした。

午後には竹を切りにいきました。竹用ののこぎりをつかい２人で協力してきります。幹がほそいことと、中身が空洞なことから、木より、さらに切りやすかったです。竹は、根っこがつながっているので、とてもたくさんはえていました。山では、指示を受けて行動することがおおかったですが、自分から積極的な行動をすることができるようになりました。はじめ、無造作にはえていた、竹が、とてもきれいになって何とも言えない達成感とすがすがしさをかんじることができました。

東京では少ない自然に触れること、それが森を守ることになることになることなにより、切り終えたうれしさなど家にこもってスマホをしたり、塾へ行ったりしている生活では知ることができなかったと思えることを学ぶことができました。

木を切るだけではない活動もしているそうなのでそれにも参加できたらいいと思います。

（東京学芸大学附属小金井中学校　３年女子の感想から）

桜井尚武の森のコラム

「ヤマグワ(*Morus australis*)とヒメコウゾ(*Broussonetia kazinoki*)」

図1. ヒメコウゾの実
20100620嵐山

図2.切れ込みの深いのと浅いクワの葉

図3. 切れ込みの深いのと浅いヒメコウゾの葉

図4. White mulberry
(Morus alba)
20120621Conecticut

クワ科クワ属は日本に数種ありますが普通野山で見かけるクワはヤマグワ(*M. australis*)でしょう。高くない野山の道脇や上層が開けたところに普通ですが、同じ場所にヒメコウゾもよく見かけます。ヤマグワはクワ属(*Morus*)、ヒメコウゾはカジノキ属(*Broussonetia*)と違う属に分類されていますが、とてもよく似ていて慣れるまでは識別するのが大変でした。両者とも梅雨の時期が果実の熟す時で摘むのは山歩きの時の楽みです。蚕（カイコ）用に栽培していたクワの果実は紫黒色に熟して甘く、田舎に住んでいた私たちの子供の頃は大事な果物で、口の周りやシャツを赤紫に染めて食べたものでした。おいしいのはヤマグワの果実も同じです。クワの果実が細長いのに対してヒメコウゾは丸い橙色の果実をつけます（図1）。これも甘くて食べられますが、果実に舌に刺さる構造物があるので食べた後舌にザラザラ感が1時間程度残りました。毒ではないですが食べるのはおすすめしません。

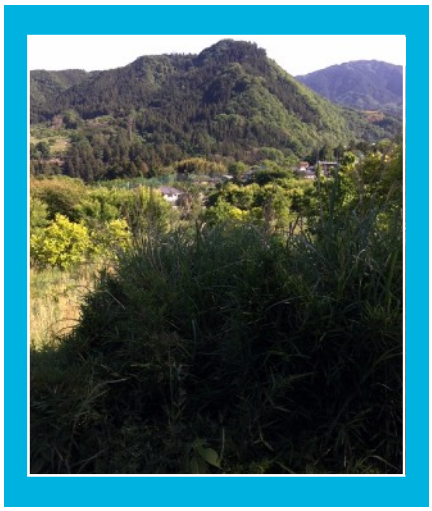
クワの葉は切れ込みが深いものから切れ込みのないほぼ卵円形のものまで様々です（図2）。ヒメコウゾも様々な切れ込みを持った葉があります（図3）。両者の区別点は、葉柄がクワでは長く(1cm以上)、ヒメコウゾでは短いことです(0.5cm程度)。葉の先端が尾状に伸びるのはヒメコウゾの特徴です。アメリカ東海岸沿いのコネチカット州の動物園の林に白い実のクワがありました（図4）。White mulberry(*Morus alba*)というそうです。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

新フィールドに向けて

今回より新たなフィールドとして、小原の入山を整備を視野に入れていましたが、山主さんとの境界が複雑で取り組みとしては一旦保留となりました。午前中は嵐山の材の片付けの手伝いを実施。午後からは新フィールドの地域となる小原



活性化の会議「総会」に同席させていただきました。

今回の活動を通して、ますます我々が何をしていきたいか問われるようなシチュエーションとなり、もう一度活動方針と年間のスケジュールと今年の活動のゴールを体外に示すべきと感じました。

小原孫山又は高尾、小仏峠を小原へ繋げるようなビジョンを持ったルート開設を進めたいと思うのはもちろんですが、具体的なフィールドがないので一回歩いてみるのも良いかと思っています。

それまでは山主さんの要望である小原地域で困ってる木の伐採を行なっていく予定です。
そこは小原の本陣の裏手を歩く道筋であり、嵐山方面を一望でき、相模湖から下る川も見える等、景観の良いエリアです。
付近の下草刈りを実施して、伐倒した木材からベンチを作り置くといった案も出ました。

相模原の若葉祭で木に対する親しみが高まっていると感じるため、間伐材の有効活用に対するアイデアも出していきたいと思います。

滝澤　康至（ForesTo Class）

【若者の森づくり】Foresto Nova

今回の若葉祭りでは木工で木のマグネットづくりを行いました。今回新しく入った1年生が3人、2年生が3人、3年生が1人、4年生が1人の計8人で参加しました。初めの1時間はあまり人が来なくて暇でした、しかし2時間立った14時ごろから人が徐々に増えてきて15時までには人が30人ほど訪れてきて余りの人気に木とマグネットが足りなくなるといった事が起きてしまいました、そのため途中で木を切り、マグネットを買い足しに行きとても慌ただしかったです、ですが今回初めて参加した1年生たち2人が子供たちに木工の作り方などを教えてくれてとても助かりました、そのため何とかイベントは最後までやりきることができました。

今回の若葉祭りの反省点としては木材などの数が足りていなく途中で買い足しに行くといった事が起きてしまいました、そのため次のイベントではもっと事前の準備をしっかりとしてイベントの途中で木材が無くるといった失敗を起こさないようにしたいです。

山口 拓海（Forest Nova）

【イベント報告】相模原市民若葉まつり

5月11日12日の相模原市「若葉まつり」に参加した。

毎年恒例であるが、相模原市役所前の駐車場を使った「環境ブース」はNPO緑のダムが取り仕切る一大イベントである。毎年、さくら祭りでは、雨や風がある厳しい環境だが、今年の若葉まつりは二日間とも好天に恵まれた絶好の日であった。

緑のダムは、丸太切り体験教室を行った。今年は竹林整備で出た竹があったので、スギ、ヒノキ、もしくは竹と選べるようにしたのが工夫であった。小さいお子様は竹で鋸を使う体験ができた。非常に良いサンプルであったと思う。二日間私は丸太切りにつききりだったが、昼食も取れないほどの人気ぶりでした。

フォレストノバは百日紅や小枝を使った動物などの工作やペンダント造りが人気であった。新市長も臨店され和気あいあいとした良いイベントだったと思う。

小林照夫（本会、理事）

「松本城を作りたい！」そんな一言で始まった積み木での初の日本の城作り。ネット上の写真や私が以前実際に撮ってきた写真を参考にしながら全体の大まかな設計を相談して決めていきました。限られた情報を頼りに想像力を働かせて議論し合ったのですが、久しぶりの積み木ということもありとても刺激的で、アイデアが飛び交うことにワクワクしました。最も苦労したのは内部の単調な組立です。ひたすら正方形や台形、板を規則的に並べていく作業を何段も行ったことには忍耐力を必

要とし、３時間ほど休憩なしに作ってもあまり城らしくなっていないことに骨が折れました。

その後他の部員に任せて休憩をとってから再開しましたが、詳細を伝えていなくても自分の判断と経験で上手く作れていた点が流石でした。最後に全員で屋根まで製作できたことは個人の集中力とチームの協力あっての完成だと改めて思います。

中学を卒業してからはなかなか参加できませんでしたが、大学生となった今、森との関わりを大切にしていきたいと強く思いました。

岡田　夏希
（埼玉大学理学部物理学科　１年）

SEKISUI HOUSE
MATCHING PROGRAM

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱